

会報「技術士しそーか」

公益社団法人 日本技術士会 中部本部 静岡県支部
事務局連絡先 Phone：080-9194-4715 E-mail：ipej-shizu@ipej-shizu.sakura.ne.jp
支部長：加藤信之 事務局長：松世麻理子 会計：小澤 靖 広報：水野俊兵

特集 CPD

静岡県支部では、会員の技術研鑽のためのCPD（Continuing Professional Development）活動を積極的に実施しています。
今回は、その一部をご紹介します。



撮影：松世麻理子

2023年1月1日 静岡県静岡市 清水港から眺める富士

目次

今の特集 ～CPD～

- 静岡県支部のCPD活動ご紹介（事務局長 松世麻理子） P1
技術士は技術士法により、継続研鑽（CPD：Continuing Professional Development）を行なうことが定められています。静岡県支部では会員の技術研鑽に役立てるよう講演会や見学会を開催しています。
- 第3回CPD講演会報告（事務局長 松世麻理子、CPD委員 内藤克巳） P3
10月22日に「静岡県の地震、津波対策」と「土石流」をテーマに講演会を行いました。
- 第4回例会（見学会）報告（CPD委員長 牧野好秀） P4
11月10日に沼津市の沼川新放水路建設工事の現場見学会を行いました。
- 第5回CPD講演会報告（事務局長 松世麻理子） P5
12月10日に「持続可能な社会に向けた技術者の取組み（環境視点）」についての講演会を行いました。

TOPICS

- テクノロジーカフェ（社会貢献委員長 山之上誠） P6
静岡県支部では団塊創業塾と連携し科学技術をわかりやすく伝えるテクノロジーカフェを行なっています。今年度の2回の講演内容を紹介します。
- 役員自己紹介（CPD委員長 牧野好秀） P7
ユーモアたっぷりに団塊世代の趣味を語っていただきました。
- ご協賛会員（企業）様ご紹介（事務局長 松世麻理子） P8
静岡県支部の活動を支援していただいている協賛会員様をご紹介します
- 今後の予定、編集後記 P9

表紙 2023年1月1日 松世 麻理子（撮影者）

○撮影場所：静岡県静岡市 清水港より富士山を臨む

小さく見える白い鳥のようなものは、袖師や興津の埠頭にあるガントリークレーンです。地球深部探査船「ちきゅう」も少し見えています。

裏表紙 2022年12月25日

穏やかな静岡の冬です。

静岡県支部の CPD 活動ご紹介

技術士は、技術士法により、継続研鑽（CPD：Continuing Professional Development）が定められています。静岡県支部では、会員の技術研鑽に役立てるよう、講演会や見学会を開催しています。2022 年度は以下の内容で実施しました。（予定も含む）

表 1-1 2022 年度 CPD 活動一覧

開催日	テーマ	講師（敬称略）
6 月 4 日（土） （年次大会）	持続可能な未来の地域社会にむけた社会インフラのデザイン ～静岡大学「未来の社会インフラデザイン研究所」の設立と展望	静岡大学防災総合センター准教授/静岡大学未来の社会インフラデザイン研究所 所長 原田賢治氏
8 月 20 日（土）	事例から知る Cha0I フォーラム活動	Cha0I プロジェクト推進部長 石神氏 Cha0I プロジェクトコーディネーター 後藤氏、九島氏、福島氏
10 月 22 日（土）	講演 1：静岡県の地震・津波対策と三保松原の景観改善の取組み 講演 2：土石流災害の対応について	講演 1：静岡県河川企画課海岸企画班長 横山卓司氏 講演 2：(株) 建設コンサルタントセンター 理事 古屋徹之氏
11 月 10 日（木）	静岡県沼津市大塚地先 沼川新放水路建設工事現場	沼津土木事務所沼川放水路整備課
12 月 10 日（土）	テーマ「持続可能な社会に向けた技術者の取組み（環境視点）」 講演 1：「脱炭素経営と環境 CSR 対応」 講演 2：「リニア中央新幹線の環境影響に係る県と JR 東海の対話の状況」	講演 1：平井一之氏（一社）静岡県環境資源協会/専務理事 講演 2：織部康宏氏 静岡県くらし・環境部/理事（南アルプス環境保全担当）
2 月 18 日（土）	講演 1：「技術者倫理：『塔』を使って、考え、行動する力をつけよう」 講演 2：「新型コロナウイルス感染症対策と今後について」	講演 1：金沢工業大学 科学技術応用倫理研究所/客員教授 大来 雄二 氏 講演 2：静岡県 健康福祉部 感染症対策局長 青山 秀徳 氏

今後も会員向けに技術研鑽の機会を作っていきたいと考えています。（事務局長 松世麻理子）

静岡県支部の CPD 活動の特徴

静岡県支部の CPD 講演会は、地元根差すことを目指して講演テーマを設定しています。

静岡県は東海地震が想定された 1970 年代から防災に力を入れていましたし、熱海土石流災害などの災害も多い地域なので、防災関連の講演を多く実施しています。また、静岡県には富士川・安倍川・大井川・天竜川といった一級河川が多数あることから、治水等の土木関連の講演も同様に多いです。他にも、静岡県の代表的な農産物であるお茶やみかんについても講演会を開催していま

す。同様に、見学会も土木関係をメインに設定し、普段は皆様が触れることができないテーマを選定しています。

また、開催方式は、会場と Web 同時配信のハイブリッド方式を取り入れていますので、静岡市の会場に来られない場合でも遠隔地から参加いただけるようにしています。皆様、これからも静岡県支部の CPD 講演会にご参加いただきますようお願いいたします。

(事務局長 松世麻理子)

表 2-1 防災、土木関係 CPD 活動一覧

分野	時期	開催内容
防災関係	2018 年度 第 6 回	静岡県における過去 4 0 0 0 年間の巨大地震・津波の最新知見 静岡大学 理学部 地球科学科・防災総合センター 教授 北村 晃寿氏
	2022 年度 第 3 回	静岡県の地震・津波対策と三保松原の景観改善の取り組み 静岡県河川企画課海岸企画班長 横山卓司氏
土木関係	2018 年度 第 5 回	天竜川の治水歴史～明治 1 5 0 年・先人に学ぶ 国土交通省 中部地方整備局 浜松河川国道事務所 副所長 三浦 弘禎 氏
	2020 年度 第 5 回	安倍川、大井川の治水の歴史と河川管理のこれから 国土交通省中部地方整備局 静岡河川事務所 副所長 齊木雅邦 氏
	2021 年度 第 1 回	静岡理工科大学土木工学科新設に際しての教育・研究の展望 群馬大学大学院 理工学府環境創生部門 助教 松本 健作 氏
	2022 年度 第 1 回	持続可能な未来の地域社会にむけた社会インフラのデザイン 静岡大学防災総合センター准教授/静岡大学未来の社会インフラデザイン 研究所所長 原田賢治氏
	2022 年度 第 3 回	土石流災害の対応について 株) 建設コンサルタントセンター理事 古屋徹之氏
	2022 年度 第 5 回	リニア中央新幹線の環境影響に係る県と J R 東海の対話の状況 静岡県くらし・環境部/理事 (南アルプス環境保全担当) 織部康宏氏
見学会	2018 年度 第 4 回	由比地区地すべり対策事業

第3回CPD講演会報告

講演会の概要、アンケート結果をお届けします。

1. 概要

日時：2022年10月22日(土) 14:30～17:00

参加者：44名

講演1：静岡県の地震・津波対策と三保松原の景観改善の取組み

講師：静岡県河川企画課海岸企画班長 横山卓司氏

静岡県の地震・津波対策：静岡県の地震防災の歩み：静岡県は4枚のプレートに位置しているため100年から200年の間で大地震が繰り返す環境下である。静岡県の自主防災組織は、組織カバー率、全国平均80%と比較して、94.1%と高い。県は、事業費総額2兆5千億円を投じて耐震化を進めている。(耐震化率97.8%)

津波は、レベル1津波（発生頻度は高い、津波高さは低い、ハードで対策）とレベル2津波（発生頻度は低い、被害最大、多重防御が必要、ハードでは限界、ハード対策+ソフト対策）がある。静岡県は、海岸線延長が全国1.5%にあたり、伊豆、駿河、遠州灘の3つから沿岸に合わせた津波対策を実施。例えば、静岡モデルとして、レベル1は防潮堤、レベル2は、防災林のかさ上げで防潮堤を築く。また、地域との会話が大切であり、地元協議会、住民、有識者、行政、産業が一体となり防災を進めている。

三保松原の景観改善の取組み：三保半島は、安倍川の土砂により形成。昭和40年代以降、安倍川側から海岸浸食発生。離岸堤を設置、砂浜が残る区域（三保地域）にL字突堤型ヘッドランド 離岸堤全長80mを設置。

三保松原は、世界文化遺産構成資産登録され、景観対応が大切である。イコモス（国際記念物遺跡会議）の指摘から、景観と防災について国内最高有識者による検討会を実施。その対応方針は、定期的な土砂供給、景観的に配慮した最小の施設設置、計画の最適化対応である。これまで設置し

た消波堤の撤去や考慮景観改善のモニタリングが計画される。

講演2：土石流災害の対応について

講師：(株)建設コンサルタントセンター理事 古屋徹之氏

2021/7/3に熱海市伊豆山土石流災害、発生、死者27名、行方不明者1名となる被害が発生。当時、一時間雨量は24mm/hであるが、停滞型で積算3日間で449mmとなった。県として、7/3昼に知事承認を得て自衛隊要請。災害対応として自衛隊、消防の機動力が大変大きかった。7/4に監視体制の設置、24時間体制で10月ころまで、雨量計、監視カメラ、見晴台で目視、ひずみ計の設置、Webカメラを活用。更なる被害を避けるため、専門家による分析として、点群サポートチーム、土砂災害専門家、点群データ、データアナリストなど幅広く専門家の協力を得た。組織としての対応が重要であり、リーダーシップを発揮した難波副知事の行動力も大きい。

2. アンケート結果

出席者は全国規模でありオンラインの強みである。各講演に寄せられたコメントを以下に掲載。

講演1

- 静岡県の防災を改めて確認が出来た。改めて地方自治体の活動に感謝。防災は自分事として行動することが大切だと痛感した。

講演2

- 土石流災害についてマスコミで報道されない事項を知り得た。時々刻々と進められた初動対応、点群サポートチームの支援、道路啓開や堆積土砂処分方法など参考になった。
- 災害対応時の対応スピードの重要性を学んだ。

(事務局長 松世麻理子、CPD委員 内藤克巳)

第4回例会（見学会）報告



写真4-1：見学会出席メンバー一同

2022年11月10日JR片浜駅の南口にスーツ姿や作業着など様々なスタイルの人が集まった。

天気は良く気温も高目で現場見学日和だ。マスク姿での久しぶりの再会で、互いを確認するのに時間がかかった。CPD委員の案内で狭い道を沼川新放水路の工事現場へ向かう。

現場事務所待ち受けていた静岡県沼津土木事務所の職員の方々から工事の概要説明を受ける。

～沼川新放水路～

【事業の目的】

沼川は非常に緩い河川勾配のため、大雨が降った際、洪水がスムーズに流下できず、甚大な浸水被害が発生している。

【事業の概要】

沼川新放水路は高橋川と沼川上流部の洪水を直接、海へ放流します。これによって10年に1回程度発生すると想定される規模の洪水による家屋浸水被害を解消する。

【計画の概要】

河川名：沼川、高橋川、沼川新放水路

場所：沼津市大塚地先～柳沢地先

延長：2.3 km

計画洪水流量： $Q = 150 \text{ m}^3/\text{s}$

事業期間：～2032年度（予定）

概要説明の後、下流工区のボックスカルバート（管きよ）内部と海岸堤防部を見学した。JR部については夜間工事となるとの事で、見学できなかった。

参加者からは、普段見ることができない場所のスケールの大きな現場見学会で有意義であった、JRの下部を通すところを見たかったなどのコメントをいただいた。

当日の参加者は19名でした。

写真4-2:工事の概要説明を受けるメンバー



(CPD委員長 牧野好秀)

第5回CPD講演会報告

気候変動の観点で「持続可能な社会に向けた取り組み」と、もう一つは水リスクの観点で「リニア中央新幹線建設が及ぼす環境影響」について講演いただきました。気候変動や水リスクについて、「持続可能な社会に向けた技術者の取組み」について考えるきっかけにさせていただけたらと考えています。

1. 概要

日時：2022年12月10日(土)

14:30～16:50

参加者：50名

テーマ 「持続可能な社会に向けた技術者の取組み(環境視点)」

講演1：「脱炭素経営と環境CSR対応」

講師：平井一之氏

(一社)静岡県環境資源協会/専務理事

講演2：「リニア中央新幹線の環境影響に係る県とJR東海の対話の状況」

講師：織部康宏氏

静岡県くらし・環境部/理事

(南アルプス環境保全担当)

2. 開催内容

(1) 脱炭素経営と環境CSR対応

写真5-1 平井一之氏



環境問題の現状と課題として、
①地球温暖化対策・ごみ減量化・

生物多様性の確保、②震災によるエネルギー政策の見直し、③第5次環境基本計画、④高まる産業界の環境意識、について説明があった。

環境マネジメントシステムとしてはISO14001に代わり、環境省・「エコアクション21」が普及してきた。企業も環境への取り組みが企業評価に結びつくことを認識し、「エコアクション21」を

SDGs・ESG対応の手段にすることで、自社の環境と経済の両立を目指している。

今日的な環境問題の解決のため、「技術者各位の役割」が期待される。

(2) リニア中央新幹線の環境影響に係る県とJR東海の対話の状況

写真5-2 織部康宏氏



リニア中央新幹線が通る南アルプスの地質構造、大井川の水の利

用状況といった前提知識から、JR東海との対話の経緯、環境影響評価における主な課題、今後の県とJR東海との交渉方針などの説明があった。

今後も県民の不安が払拭されるようJR東海との対話を進めていくとのこと、現在進行中の課題であり、目が離せない。

写真5-3 会場の様子



(事務局長 松世麻理子)

テクノロジーカフェ

新型コロナウイルスの影響でテクノロジーカフェ（以下 カフェ）の活動も一時中断を余儀なくされましたが、一昨年からは2か月に1回のペースに変更し継続することができました。活動の方法は、オンラインによる方式を採用しています。主催者であるNPO法人静岡団塊創業塾（原田和正理事長）が運営するシニアライフ支援センター「くれば」静岡市葵区両替町2-3-6の事務所で聴講できるハイブリッド方式も採用し、感染症の状況を見ながら現在に至ります。当支部は、法人会員として静岡団塊創業塾に登録しています。カフェの予定については、くればホームページにも掲載されています。当カフェの目指すところは、一般市民向けに技術テーマをわかりやすく説明し聴講される方々とごつくばらんに意見交換する機会を大切にすることです。

図 6-1 掲載される月ごとの予定表

今回は、お二人の講演を紹介します。

1 回目は、令和 4 年 8 月 18 日（木）環境部門の石垣治久会員が「より良い製品を目指して」という題目で講演しました。参加者は、10 人で一般からの参加者は 5 人でした。石垣講師は電機メーカーにおいて長年、品質管理、部品材料評価、環境配慮、開発の視点の業務にスタッフ部門技術者として携わられてきました。講演の内容は、持続的に製品のクオリティを高める内容について本人の経験を交え、紹介されました。ところで、品質をめぐる不正が最近多く聞かれます。企業体質の硬直化など経営陣にも責任という記事にも疑問がわきます。

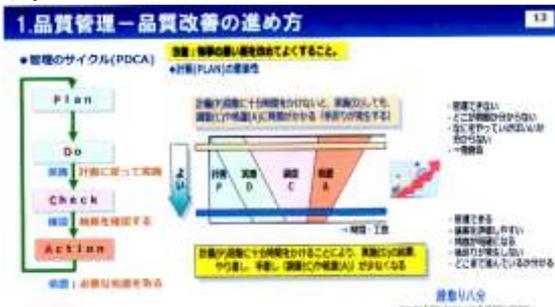


図 6-2 石垣会員講演内容から引用

テクノロジーカフェを始めたきっかけは、「まだまだすごい日本の技術」、その品質は世界で認められていたと思う。残念！改めて、「どうする日本の技術」というテーマで取り上げてほしいかもしれません。皆さんからのご意見をお待ちします。

2 回目は、10 月 20 日（木）化学部門の北本達治会員が「記録材料の変革」という題目で講演しました。参加者は、11 人で一般からの参加者は 5 人でした。北本講師は長年、磁気テープの研究開発に従事されてきました。講演の前段では、人間にとって記録は昔も今も重要で、古くは、粘土板、石、木簡、竹簡に始まり、近世では、写真、蓄音機、戦後では、磁気記録、光ディスク、半導体メモリーと多様化してきた変遷を説明し、後段で、今、主流になっているハードディスク（HDD）の記録容量の進化について記録密度に目を付け研究され、ノーベル賞候補でもあった岩崎俊一先生の功績も話されました。

図 6-3 北本会員講演内容から引用



（社会貢献委員長 山之上 誠）

役員自己紹介（CPD 委員長 牧野好秀）



私の生まれた1947年から1949年あたりを団塊の世代というらしい。××さん 趣味は何ですか？と、聞かれると山とスキーと答えていた。当時は何も遊ぶものはなく、山へ行くか、海へ行くしかなかった。

たまたま、本庁（県庁）に勤めていた時の先輩が山好きで、誘われて山へいくことになった。静岡の奥には安倍奥といわれる、千メートルから2千メートルくらいの山があり、日曜日ともなれば、梅ヶ島温泉行の早朝のバスは満員で臨時バスが出るほどであった。バス停から3時間余りで頂上に立てるので、毎週のように通ったものである。夏になると草生きれと藪がひどくなるので、自然とアルプスへ足を延ばすようになった。子供が少し大きくなると毎年のようにアルプスへ出かけたものである。しかし、これも長くは続かなかった。沢登りの途中で蜂にさされてしまい。医者から、「次に刺されると死ぬぞ」と脅かされてしまった。安倍奥の沢になごりはあったが、以来、山から遠ざかっている。

さて次は、同じころ始めたスキーであるが、当時は今のような貸しスキーはなく、ボーナスをはたいて買った板を持って、名古屋からの夜行でスキー場へ行ったものである。子供の成長を待って家族スキーをはじめ、毎年、正月には新潟や長野の民宿へ通った。ぼろ車にスキーキャリアを取り付けて52号を往復したことが思い出される。このスキー行きも、女房の心筋梗塞で止めてしまった。娘の卒業前に行ったスキー場で体調が悪くなり、翌日、病院で緊急手術をしてもらい事なきを得た。

残ったのは、ジョギングである。山行きのトレーニングとして始めたものが、その後のブームによって走り続け、今も続いている。最初は、昼休みに駿府公園の周りを1～2周回っていただけであったが、30歳になったときに、大久保初男さ

んが富士登山競走を走ったことをラジオ放送で聞いて、山ならばと思い参加した。

大会要項には「富士吉田市役所をスタートし、吉田口登山道を経て山頂に至る約21km（標高差3,006m）のコース、7時半にスタートし正午までに山頂に到着した者を完走者とする」とあり、開催日は市制記念日の7月25日と決まっていた。いきなり山頂コースでは無理と思い、まず五合目コースに出走し、翌年山頂コースに参加した。しかし、台風のため五合目中止となっただけで、完走は一年先送りにされてしまった。

以後、毎年のように大会要項を送ってくるので、レースの苦しさを忘れて申し込んでしまった。定年退職前に最後の完走をと考えていたが、通勤ラン中に負傷してはたせなかった。結局、富士登山競走は29回出走し18勝7敗4分けであった。（引き分けは荒天中止）



何もなかった団塊世代が、ブームにのっていろいろやってみたが、のこったのはジョギングである。ジョギングも続けると、タイムも走れる距離も伸びて楽しいものである。しかし、筋力を保つのは容易なことではなく、加齢とともに走れなくなってきた。今、駅まで通勤ランしているが、以前は1時間弱で走っていたのが、1時間半以上かかり、歩いている人にも抜かれる始末である。でもやめられない、これは病気である、皆様もこの記事を読んで決して走り始めたりしないでください。ジョギングは体に良くないし、人にうつるので注意してください。（CPD 委員長 牧野好秀）

協賛会員（企業）様ご紹介

静岡県支部の活動を支援していただいている協賛会員様をご紹介します。

表8-1 協賛会員（企業）一覧 2023年2月現在 16社 (敬称略)

会社名	役職	代表者氏名	住所
(株) 共和コンサルタント	代表取締役社長	杉本洋	浜松市
(株) 建設コンサルタントセンター	代表取締役社長	小田秀昭	静岡市
太洋電機 (株)	代表取締役会長	齋藤智	静岡市
(株) 日本地理コンサルタント	代表取締役社長	山田巧	静岡市
(株) 東日	代表取締役社長	芹澤秀樹	沼津市
(株) 中部総合コンサルタント	代表取締役社長	豊田哲也	浜松市
吉田測量設計 (株)	代表取締役社長	石野直之	浜松市
昭和設計 (株)	代表取締役社長	山村卓道	静岡市
(株) 蓮池設計※	代表取締役社長	蓮池康彦	浜松市
不二総合コンサルタント (株) ※	代表取締役社長	牧田敏明	浜松市
(株) フジヤマ※	代表取締役社長	藤山義修	浜松市
大鐘測量設計 (株)	代表取締役社長	塚本好明	島田市
服部エンジニアリング (株) ※	代表取締役社長	服部剛明	静岡市
静岡コンサルタント(株)	代表取締役社長	森崎祐治	三島市
富士設計 (株)	代表取締役	小野寺久子	富士宮市
小林電気工業株式会社	代表取締役社長	小林克也	沼津市
株式会社アースシフト	代表取締役社長	近藤隆智	静岡市
(株) ウインディーネットワーク	代表取締役	杉本憲一	下田市

※は2口加入の会員

協賛会員は、年会費 1 口 10,000 円/年をお願いしています。協賛会員の皆様につきましては、日本技術士会からの技術情報の提供とともに CPD 例会に 1 口当たり 2 人まで無料で参加いただけます。ご賛同いただける企業様におかれましては、ぜひ、事務局までご連絡ください。

■今後の行事予定

No	日時	行事
1	2023年6月3日(土)	年次大会
2	2023年6月24日(土)	合格者説明会

※会員の方には、メーリングリストにて随時行事の案内をお知らせ致します。

■編集後記

静岡県支部会報 177 号をお読みいただきありがとうございます。

今号の特集は CPD です。CPD 講演会の開催にあたっては、牧野 CPD 委員長率いる CPD 委員会（全 5 名）で、講師の依頼から始まり、案内の作成、中部本部、統括本部への CPD プログラムとしての申請、当日の準備や片付けと、数多くの仕事をこなしています。講演会にご参加の際は、ぜひ CPD 委員会の活動にも目を止めてみてください。（松世）



2022年12月25日 クリスマスの清水港日の出船溜まりから望む富士山



中部本部 静岡県支部

事務局：〒424-0943 静岡県静岡市清水区港町 1-5-6
TEL：080-9194-4715 E-mail：ipej-shizu@ipej-shizu.sakura.ne.jp
<http://ipej-shizu.sakura.ne.jp>